

熟議掲示板「ICTを活用した21世紀にふさわしい学校や学びとはどうあるべきか？」の設定について

1 趣旨

- ・ 文部科学省Webサイト「熟議カケアイ」において、「ICTを活用した21世紀にふさわしい学校や学びとはどうあるべきか？」について、掲示板を設定し、教育現場に関わる様々な立場の方からの意見を募集。
- ・ 提出された意見については、本懇談会での議論に供する。

2 URL

http://jukugi.mext.go.jp/jukugi?jukugi_id=8&p=1&pager=100

3 設定期間

平成22年5月14日(金) ~ 5月31日(月)

「熟議」とは

「熟議」：多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。

政策を形成する際、

- ①多くの当事者(保護者、教員、地域住民等)が集まって、
- ②課題について学習・熟慮し、討議をすることにより、
- ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- ④解決策が洗練され、
- ⑤個々人が納得して自分の役割を果たすようになる、

というプロセスのことを言う。

◆事例:

10年前、鹿児島県鹿屋市では地元医師会と県立病院が対立。救急車の市外搬送が多数発生。しかし、県立病院院長と医師会長などの関係者が積極的に熟議の場を開くことによって、問題解決のための画期的なシステムを考案、みんなで実行。今では、高度な治療まで地域内で行えるようになった。また、3年前より小児夜間救急のコンビニ受診が増え、医療疲弊が問題となったが、ここでも、医療関係者と母親たちの熟議の場が多数設けられることによって、受診行動の適正化と診療の質向上につながった。

◎熟議の効果1：行政改革

- ・教育についての情報と議論が市民に広く開放される。
- ・行政が教育政策についての情報提供と熟議のファシリテーションをおこなうことで、市民と共に教育政策を考えることができ、現場と行政の間にある問題認識のギャップを縮小することにつながる。
- ・社会課題ベースの議論ができるので、「縦割り、横割り」行政を乗り越えた政策形成につながる。それによって、教育現場における社会課題について、迅速で効率的な対応が可能となる。

◎熟議の効果2：新しい教育文化の創造

- ・正しく潤沢な情報のもと、色々な関係者が本音をぶつけ合い、課題を認識。そして、課題解決に向けて徹底的に議論をすることにより、社会的合意を編集・創造する。
- ・これらのプロセスを通じて、「市民一人ひとりが教育の担い手として当事者意識を持って教育に関わり、良い教育、良い社会を創る」という市民文化を醸成していく。
- ・それぞれの地域で、教育を考えるための「リアル熟議」が開かれるようになることで、市民が居場所と出番を確認できるようになる。また、地域のつながりが形成される。

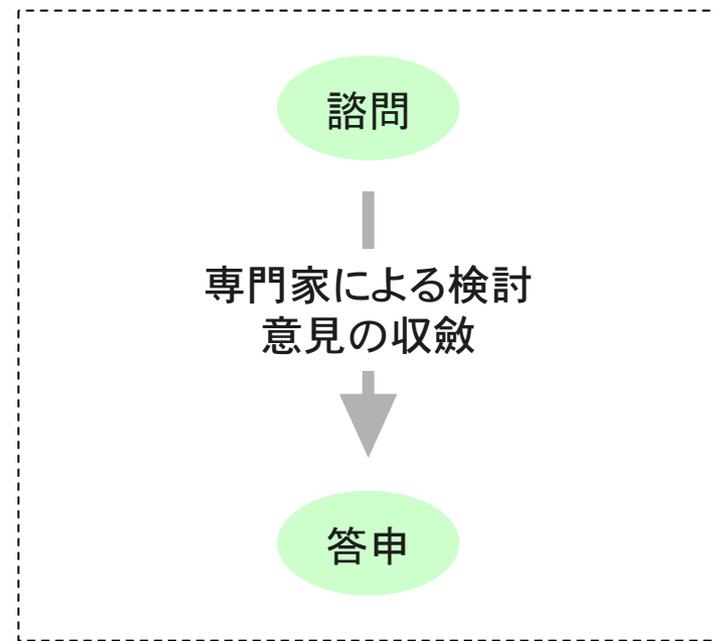
「熟議」に基づく教育政策形成の取組①－文科省熟議による教育政策形成構想－

中央教育審議会等における専門家による検討に合わせて、車の両輪として、当事者による「熟議（じゅくぎ）」に基づいた意見を踏まえ、政務三役にて政策決定を行う。

当事者による「熟議」



中央教育審議会等



「熟議」に基づく教育政策形成の在り方に関する懇談会

政務三役

教育政策の決定

当事者による「熟議」に基づいた意見を収集するため、
「現場対話」と「Webサイト」（熟議カケアイ）をハイブリッド展開する

現場対話での熟議



Webサイト上での熟議



ハイブリッド展開

平成22年4月17日開催の
「熟議に基づく教育政策形成シンポジウム」
からスタート

平成22年4月17日オープンの
Webサイト「文科省政策創造エンジン 熟議カケアイ」
にて「教員の資質向上」をテーマにスタート

【コンセプト】

- ①実際に対面で行う「現場対話での熟議」と、時間・場所の制約が少ない「Web上での熟議」をハイブリッド展開
- ②それぞれの熟議には、「教育現場の当事者」と「政務三役」が参加
- ③文部科学省職員は、熟議を促進する情報提供（事例やデータ）・ファシリテーター役として参加
- ④熟議のプロセスはネット等で公開（特に、「Webサイト上での熟議」はリアルタイムで公開）